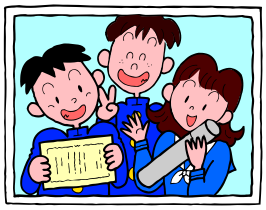
MARUZUKA

浜松市立丸塚中学校
学校だより　第９号
令和７年３月２７日

本年度も、丸塚中学校の教育活動に対しまして、御理解・御支援を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。３月１８日には、学校内外で輝かしい活躍を見せくれた３年生の旅立ちの場となる「第６３回卒業証書授与式」が、厳粛に執り行われました。天候に恵まれ、明るい日の光が温かく差し込む雰囲気は、まさに卒業生の前途洋々たる未来を照らしてくれているようでした。卒業生が担任の先生の呼名に応える凛々しい姿、５年ぶりに行われた在校生による送辞とそれに応える加古元生徒会長による答辞、そして卒業生全員による卒業合唱は、まさに感動的なものでした。



校長の式辞から、要旨を抜粋いたします。

卒業式「校長式辞」

陽ざしも徐々に明るさを増し、春の訪れが感じられるようになりました。

さて、１６８名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。心からお祝いいたします。ただいま一人一人に手渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了した証明です。今日、このように卒業を迎えることができたのは、皆さん自身の努力の賜です。しかしながら、陰となって皆さんを支え、励ましてくださった保護者の方をはじめ、多くの方々のお陰があったことを忘れてはなりません。そのことを心に留め、お世話になったすべての方々に感謝の気持ちを表してほしいと思います。

今日、この日を迎え、卒業生の皆さんは今、どのようなことが頭に浮かぶでしょうか。おそらく、３年間の印象深い場面が一人一人の脳裏によみがえってくることでしょう。それらすべてが「経験」という名の財産であり、かけがえのない大切なものとして、皆さんのこれからを確かに支えてくれるはずです。

私は、今年度赴任してきましたので、残念ながら皆さんとの思い出はこの一年に限られてしまいますが、その中でも数々の印象的な場面が思い浮かびます。特に思い出深い何点かを振り返ってみます。

まずは、赴任して早々に修学旅行がありました。今回の中で一番の思い出は、妙心寺での座禅体験でした。和尚さんは棒を持っていましたね。あれはけいさく、もしくは、きょうさくと呼ばれるもので、眠気に負けたり、心が散漫になったりすると肩を叩いて気持ちを引き締めてくれるものです。もちろん、自分自身で心身をリセットしたいときには申し出ることによって叩いてもくれます。座禅体験が終了した後に、和尚さんから叩かれる経験をしたい人は残ってくださいという話があったところ、なんと８割近くの生徒が残って希望していました。後で和尚さんに話を聞いたら、ほとんどの学校は２、３割いればいい方ですよと言っていました。さらに皆さんの中には「強めに叩いてください」とお願いしている人もいてびっくりしたということでした。多くの皆さんが、あえてけいさくで叩かれる痛い経験を希望し選択するという場面を見て、私はこんなことを思いました。これからの人生で、皆さんも選択に迷うことが多いかと思います。芸術家の岡本太郎氏は「迷った時は困難な道を選べ」と言っています。困難な道は、自分への挑戦となり、得るものも多いからだそうです。皆さんの座禅での心構えは、きっと未来において、自身の幸せへつながる選択をしていくだろうと確信した一コマでした。

それから思い浮かぶのは、縦割り結団式や体育大会、学芸発表会などでの団長のパフォーマンスにかけるエネルギーのすごさです。オリジナリティあふれる堂々としたパフォーマンスは、見るものに笑いと感動を与えました。もちろん団長の表現力は素晴らしいのですが、実はそれ以上

に素晴らしいのは、笑ってほしいところでちゃんと笑える、盛り上がってほしいところで盛大に盛り上がれるという雰囲気をつくっていた周りの仲間たちの姿勢です。団長を一人にさせないこの温かい仲間の思いやりが相乗効果となって、行事を大成功へと導いたのだと思います。論語で有名な孔子が言っています。生きていく上で、人として一番大切にしたいことを漢字一文字で表すと、それは「恕（じょ）」であると。「恕」とは、相手の身になって許すこと、つまり思いやりの気持ちです。皆さんは、「恕」の精神、思いやりの気持ちが十分に育まれてきています。これからの新しい生活においても、この精神をぜひ大切にしていってほしいと思います。

思いやりの精神といえばこんなエピソードもありました。私は皆さんのいいところを見つけようと、時間があると授業や部活動などをよく見に行きました。そしてある時、３年生の体育の授業を見に行くと、「校長先生、一緒にテニスしましょう」「次は卓球に来てください」などと声を掛けてくれました。嬉しくなり、皆さんの言葉に甘えて一緒に運動を楽しめたことは、体育教師冥利につきます。その節は、気を遣っていただきありがとうございました。

皆さんが進むこれからの社会は、変化が激しく、予測不可能な時代だと言われています。経済・社会のグローバル化の波が押し寄せ、人工知能やロボット、再生医療など新たな科学技術が進展する一方、エネルギー問題、少子高齢化など様々な課題と向き合っていくことになります。間違いなく私たちの生活環境や働き方は、大きく変化をしていきます。そのような時代であっても皆さんには、社会の中で、自立した人間として、力強く生きていってほしいと思います。そのためには、世界の人々が、平和に暮らしていくための幅広い知見を持ち、様々な人種や文化を理解できる感性を身に付け、多様な価値観を持つ人々との人間関係を築くことで、社会や時代の変化に柔軟に対応できる人へと成長していくことが大切です。先ほど話した、「迷った時は困難な道を選べ」や「恕」の精神、つまり思いやりを大切にして生きていくことは、地道に自分を磨くことや多くの人と信頼関係を築いていくことに有効に働くと私は信じています。ぜひ、この二つのことを心に刻んで人生を歩んでください。

私たち職員一同は、校訓の「誠実」の精神にのっとり、「志を持ち、自ら学び、良さを伸ばし合う生徒の育成」を念頭に、全力で教育活動に取り組んでまいりました。お子様たちが生きるこれからの時代は、変化の激しい時代になることは間違いありません。しかし、どんな困難な時であっても、お子様たちは本校で学んだことを基礎として、これからの人生を力強く生き抜いていくものと信じております。この３年間、ＰＴＡ活動や地域活動を通して、本校の教育にお寄せくださいましたご協力とご支援に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後に新しい旅立ちの日にあたり、皆さんの明日が、未来が、幸（さち）多くありますことを願い、私の式辞といたします。

転任職員の紹介

令和６年度末の人事異動により、以下の教職員が転任いたします。本校在職中の御指導・御鞭撻に感謝を申し上げますとともに、今後とも御厚誼を賜りますようお願いいたします。

青島　正和	社会	浜松市立八幡中学校
鈴木　亮	国語	御退職
犬塚　智春	理科	御退職（浜松市立東部中学校）
芦田　昌子	社会	浜松市立開成中学校
髙澤　広之	理科	御退職
大石　茜	保健体育	浜松市立南陽中学校
金川　貴明	理科	御退職
岩下なみ江	栄養教諭	浜松市立可美中学校
本間　恵	英語	浜松市立新津中学校
宍戸　輝音	社会	浜松市立中郡中学校